

外國貿易統計の新任務と構成

塚 原 仁

外國貿易は既にマーカンチリズムの時代に於て統計的觀察の對象となつてゐた。而して其當時、外國貿易統計の目的とせる所は、フリードリッヒ大王の言を藉りれば貿易の結果國家が儲かつたか否か、又儲かつたとすれば何程の利得があつたか、を知らしむるに在つた。併し外國貿易統計を政府が年々繼續的に發表する様になつたのは、可成後の事である。即ち其先頭を切つたのは佛蘭西であつて、實に一八一八年以來の事である。米國の一八一九年、白耳義の一八三一年、英國の一八三二年、埃太利匈牙利の一八四〇年、獨逸の一八四二年、和蘭の一八四六年、瑞西の一八五〇年等が之に續いてゐる。¹⁾

外國貿易統計は貨物の國際移動に關する統計であつて、一定の區域を出入する貨物の輸出、輸入及び通過に就き、貨物の種類、及び仕入國並に仕向國によつて、其數量並に價額を統計的に調査

1) Walter Grävell: Neue Aufgabe der Aussenhandelsstatistik. Beiträge zur deutschen Statistik. Festgabe für Franz Zizek zur 60. Wiederkehr seines Geburtstages. S. 167.

せんとするものである。更に輸出入額の對比によつて當該地域の貿易差額をも明かにするものである。²⁾ 外國貿易統計は一般に貿易統計又は商業統計 (Handelsstatistik, statistique du commerce) の名を以て呼ばれてゐる。元來商業統計は財貨配給に關する統計にして、此名稱を以て外國貿易統計を現はすは妥當ならざるが如き感がするが、之は外國貿易が廣義の商業統計(註中に占むる地位が甚だ重要な事、並に國內商業の統計的把握が困難なるに對して、外國貿易は國境通過に際して、之を捕捉する事が比較的容易なるに依るものである。³⁾

註 商業統計なる語は我國に於ては種々に解されてゐる様である。商業統計を以て外國貿易統計の異名とするものがあるし、又內國商業及び外國貿易双方の統計を含むものとして用ひるものがあるし、又之を以て廣く商業に關する統計とするものがある。商業統計を廣く商業に關する統計とする説は藤本幸太郎教授の「商業統計の常識」に之を見る事が出来る。同教授によれば、商業統計は「營利を以て行はれる商業並にそれに關するものはすべて」之を包含するもので、從て「物價統計、金融統計、市場統計、倉庫統計、經營統計、貿易統計等々」が其内容を爲すものである(同書三三頁)。同教授も云つて居られる様に、商業統計は經濟統計の一部ではあるが、以上の内容には經濟統計の一部門としての商業統計に包含さるべきものと看るよりは、寧ろ所謂商業統計と同列に置くに至當とすべきものがある。此意味に於て商業統計なる語は財貨配給に關するものに限局し、其配給の範圍が國外に涉るや否やに依つて內國商業統計と外國貿易統計とに分ち研究する事が、經濟統計の一部門としての商業統計の任務たるべきものと考えらる。

次に外國貿易統計は如何なる目的又は任務を有するものであるか。勿論其目的や任務は當時の經濟や行政の狀態、其他經濟政策的觀念の如何によつて異なるべきは云ふ迄もない。茲には

2). Franz Zizek, Grundriss der Statistik. S. 401.

3). Armand Julin: Principes de statistique théorique et appliquée. Tome Deuxième, Statistique Économique. p. 1.

Wilhelm Winkler: Grundriss der Statistik. II. Gesellschaftsstatistik. S. 160.

唯從來如何なる任務が認められてゐるか、國家行政、經濟、並に科學の立場より簡單に説明を加へる事とする。

先づ國家行政の立場より之を見るに、外國貿易統計は商業政策の具體的基礎を提供する。詳言すれば外國と如何なる通商條約を締結すべきか、又其締結の成果如何等を判斷する根據を與へるものである。即ち國家は外國貿易統計によつて、國家間の通商關係換言すれば、如何なる國が自國の得意先であり、又仕入先であるか、又其輸出入關係がどうなつてゐるか、又或國に對し如何なる種類の貨物が輸出され、或は輸入されてゐるかを正確に知り、之に基いて國家はそれに相應する商業政策的手段を採る事が出来る。⁴⁾例へば保護關稅政策を採つてゐる國家は、外國貿易統計によつて、輸入數字の檢討により如何なる自國産業が危殆に瀕せしめられてゐるか、其程度及び國を知り、之に基きて此等諸國よりの輸入品に對して輸入關稅を課せんと努力するに至るべく、又其對手國に輸出入數字によつて如何なる要求を爲すべきか、又は讓歩すべきかを決する。⁵⁾之を要するに外國貿易統計は對外商業政策の中心を爲すものである。

次に經濟の立場、特に商人の立場より見るに、先づ外國貿易統計が輸出入業者に取りて其取引や經營方針決定の指針を與へるものとして重要なものは殆ど喋々の要はないであらう。更に又輸出入業者以外にも、例へば外國より原料を輸入し、之を製造加工する工業に従事する者は其原

4) Tyszka: Statistik. Teil II: Die Wirtschaft. SS. 89. 90.

5) Meerwarth: Einleitung in die Wirtschaftsstatistik.

料の購入に際し外國貿易統計に其指針を見出し、又國內産業に従事する者は外國貿易統計によつて競争品の輸入を知り、其對策を講ずる事が出来るであらう。⁶⁾其他外國貿易統計が市場研究、市場觀察の貴重なる資料を提供し、一般經濟に寄與する所は多方面且甚大である。

更に科學的立場特に國民經濟學的立場より、外國貿易統計は重要である。即ち外國貿易統計は國際的通商關係に關する最も信憑するに足る材料を提供する。詳言すれば、吾人は之によつて直接又は間接に如何なる國が如何なる通商關係にあるか、輸出入貨物の種類、數量並に價額の確定によつて其態樣並に範圍を知り、更に個々の貨物に就きてそれが如何なる國に於て生産さるゝか、又生産統計が存在する場合に於ては、其總生産額と輸出との割合を明かにし、他方輸入國や輸送路を明かにする事が出来る。更に進んで輸出入品を原料品、食料品、半製品、製造品等に區別する事によりて、吾人は其國が農業國であるとか、或は工業國であるとか、其國の經濟發展の段階の判斷を下す事が出来る。而して農業國には農業國としての輸出入貿易の特徴があり、又工業國には工業國としての輸出入貿易の特徴があり、又之に基いて其貿易政策も亦決せらるゝ事となる。⁷⁾之を要するに、我國貿易統計によつて國民經濟問題に於ける國際分業並に國際的交錯を明かにする事が出来る。

尙外國貿易統計は貿易差額を明かにし、又最近に於ては景氣豫測の資料としても重視されて

6) Tyszka: ibid. S. 90.

7) Tyszka: ibid. SS. 87. 88.

る。⁸⁾

以上簡單に説明したる如く、外國貿易統計は甚だ有用にして、諸種の問題の解明に極めて重要なものである。然るにも拘はらず從來は兎角等閑視され勝であつた。戰後恐慌期に入るに及んで、世界經濟に一大轉換が起り、之に伴つて外國貿易統計が此新事態に對應して、諸問題解決の指針を提供するものとして、再檢討を必要とするに至つた。而して新なる狀態によつて外國貿易に如何なる任務が課せられたか、又其任務に照應して外國貿易統計は如何に構成さるべきか、之が本稿に於て取扱はんとする所である。而して本稿は主として Grivell: Neue Aufgaben der Ausenhandelsstatistik に依れる事を附記する。

二

今日通商關係に於て見らるゝ一大特徴は互惠主義原則であらう。此原則の根基を爲すものは、一方に於て輸出入の相互依存並に貨物移動と資本移動との關係に對する認識、他方に於て或特定國家例へば獨逸に於いて其輸出保證によつて一定範圍及種類の貨物の輸入を確保せざるべからざる必要とである。而して此互惠主義原則の實施は必然に新形式の通商條約及び國際間に於ける貿易統制の新方法を發展せしむるに至つた。此新方式、此新方法に應じて、從來とは

8) Tyszka: ibid. S. 89.

異つた方法及び範圍に於て、外國貿易統計を必要とするに至り、茲に外國貿易統計の新なる意義並に重要性が認められる事となつた。⁹⁾

次に之を三方面より説明する事とする。

(一) 先づ國家行政の立場より見るに、政府は通商條約及び爲替清算協定の締結、並びに輸出入統制の爲に、外國貿易統計を必要とする。かゝる任務は最近のものである。かくて、輸出入の割當數量は外國貿易統計の結果を基礎とし、更に爲替許可證の作成も亦其結果の如何に依存せしめられ、輸出の促進に就ても亦同様外國貿易統計の結果を土臺としてゐる。最近獨逸に於ては、外國貿易統計の結果は通商條約又は爲替清算協定の構成部分となつてゐる。かくて外國貿易統計は最早や單なる官廳事務に止るものではなく、寧ろ外國貿易の統制、例へば輸入の割當とか輸出の促進とか、爲替の許可とか、或は支拂額の決定等に當つての決定的基礎となつた。換言すれば外國貿易統計は外國貿易統制手段の中心に位するもので、部分的ではあるが各商人の取引の種類、範圍並に方向が之によつて支配されてゐる。

勿論かく云へばとて、外國貿易統計を以て直接有效なる商業政策的手段と云ふのではない。只實際的に外國貿易形成の方向を決定すべき規矩として重要性を有するに過ぎない。例へば今年度の輸入數量を決定するに當つて前年度の五〇%とすると云ふが如き場合に於ては、前年

9) Grävell: ibid. SS. 171. 172.

度の數字を尊重し、之を認めて初めて意義のある事である。

かくて外國貿易統計の應用範圍は二方面に於て擴大する事となつた。即ち第一には、國家は其立法並に條約的手段に對して、従前に比して一層外國貿易統計を必要とする。蓋し今日に於ける狀態の變轉は甚だ目まぐるしく、之が爲に其新狀態に對應せんが爲には益、短期の協定を結ぶ必要がある事、並に今日の國際條約の約款中には從來見られなかつた商品の割當と云ふが如き、過去の統計的結果を基礎とする部分を包含するが故である。第二に貿易統制とか爲替管理等の爲に、例へば輸入監視署 (Überwachungsstelle der Einfuhr) とか爲替署 (Devisenstelle) とか輸出検査署 (Prüfungsstelle der Ausfuhr) と云ふが如き新なる外國貿易統計の利用官廳が現はれ、之等が益、外國貿易統計を必要とするに至つた。以上の如き理由によつて政府は實際上の必要より、外國貿易の詳細に就き精確なる結果を要求してゐる。¹⁰⁾

(二) 次に經濟界に於ても亦従前とは異りたる意味に於て、又より一層外國貿易統計を必要としてゐる。

前にも述べたるが如く、國家行政が貿易統制に乗り出したる結果として、全體として各經營の輸出入のみならず、個々の取引までも、國家的管理の下に置かるゝ結果として益、外國貿易統計の必要が痛感さるゝに至つた。例へば輸入割當の決定に當つて、最終月の輸入額を標準とすると

10) Grävell: ibid. SS. 172—173.

云ふが如き場合には、今後の割當額を算定する爲には、輸入の状況を出来るだけ迅速且正確に知る必要がある。而して輸出は輸入を制約するを普通とし、輸出が大なれば、輸入も亦大なるべく、其反對に輸出が小なれば、輸入も亦それだけ制限される事となる。従て營業上適當の處置に出でんが爲には、常に輸出状況に就き出来るだけ早く之を確知する事が必要である。茲に於て外國貿易統計は必要なる材料を提供するものである。又補償制度を採れるが如き場合には、如何なる貨物に補償が及ぼされるやをも明かにするを要する。

更に今日に於て商人は從來に比して、外國市場の状況、並に世界市場に於ける競争に就きて、一層の知識を必要とする。蓋し今日の如き高率關稅や輸入割當其他の貿易制限が極端にまで行はるゝが如き時代に於ては、豫め詳細なる市場研究なくしては到底貿易の進展は之を期待する事は出来ない。此點に於て貿易業者は市場觀察並に市場研究の材料として益々外國貿易統計に依存せざるを得ない。換言すれば外國貿易統計は外國市場に於ける販賣、並に仕入の可能性に關する知識を與へ、又如何なる國々が貿易に關與せりや、更に輸出入發展の状況を認識せしめ、之によつて如何なる所に新市場開拓の可能性ありや、又奈邊に其困難が潜むかを明かにする。又諸外國に於ける同種統計との比較によつて、其國の貿易發展が共通的な一般現象であるか、又或は自國のみの特殊現象なるかも、之を知る事が出来る。

更に又外國貿易統計は直接外國貿易に従事せる者に取りて甚だ重要な材料及び知識を與へるのみならず、國內商工業者に取りても亦極めて重要なものである。蓋し外國貿易統計は從來外國品を以て滿たされてゐた需要中如何なるものが、國産品を以て代へ得るか、又如何なる貨物が輸出の可能性があるか、更に如何なる貨物を輸出生産の目標とすべきや等國內商工業の方向を決する上に於いて、甚だ重要な説明を與へるからである。

右述べたるが如く、外國貿易統計は經濟界に取りて缺くべからざる重要性を有するものであるが、個々の商人や商社等は獨力を以てかゝる統計を利用すると云ふが如き事は、事實上財政上到底不可能の事である。従つて之が爲には國家其他經濟研究機關の強力なる助力を必要とする。而して組織的市場觀察諸資料の蒐集並に頒布及び宣傳等に就きて特別の官署が設けられ、之等必要な資料を各商人の爲に特に加工整理したるものを提供してゐる。此場合外國貿易統計が特に有用なるは喋々を俟たぬであらう。¹¹⁾我國に於て最近(昭・二・二二八日大朝參照)外國貿易統計の整理改善並に外國貿易の振興に關する施設を整備擴充する爲に、其經費に充つる目的を以て貿易統計税の創設が傳へられてゐるが、貿易統計税の賦課に就ては賛否交々の論がある所であるが、外國貿易の重要性の増大によつて、其整理改善の必要が益々大なるべき事は、以上の記述に依つて明かなる所であらう。

11) Grävell: ibid. SS. 173—175.

(三)最後に經濟學の立場より見るも、従前とは別の立場より、より一層貿易統計を必要としてゐる。之が爲には景氣統計並に世界經濟構造の變化の研究を想起すればよい。經濟學は今日に於て従前よりも一層強く現實的問題を取扱つてゐる。従て統計は之等日常問題の實證的研究の手段として構成さるべきである。此點に於て經濟學研究が外國貿易統計に期する所大なるものあるべきは云ふを俟たぬ。¹²⁾

三

外國貿易統計は以上述べたる任務に鑑みて、最早や單に外國貿易關係の展望を爲さしむるを以て足れりとせず更に進んで新なる任務の遂行の前提として其作製方法並びに國際的比較の點より、此新任務に照應して外國貿易統計を構成しなければならぬ。

A 外國貿易統計の作成

外國貿易統計の新任務は外國貿易統計を以て外國貿易の簿記たる事を要求する。取引さるる貨物は一噸と雖も、又受拂さるゝ對價は一圓と雖も洩らす事なく、統計的に把持さるべきのみならず、更にかく統計的に把握されたる結果は實際の取引と其貨物の種類並に貿易の方的に於て一致すべき事を要求する。蓋し外國貿易の結果は爲替の保有高或は其交付額決定の基礎と

12) Grävell: ibid. S. 175.

なるからである。從て今日の外國貿易統計はあらゆる點に於て絶對正確でなければならぬ。詳言すれば、出来る限り經營簿記と一致するを要し、又あらゆる取引を洩さず捕捉し、更に其概念規定に當つては、有用なる結果が得られる様に明快且妥當なるを要し、終りに統計の發表が適時にして、發表に際して陳腐とならざる様にすべきである。

外國貿易統計の結果が正確なるべき事が要求さるゝ限り、統計的申告も亦必然に正確なるを要すべきは云ふを俟たぬ。更に又申告の加工即ち個々の申告の統計的編成は之を充分其目的に沿ひ且信憑せらるゝ様行はなければならぬ。¹³⁾

(一) 外國貿易統計は正確である事を要する。換言すれば申告が完全なる事を要する。如斯は獨逸の關稅同盟當時に於ける外國貿易統計に在りては、到底希求し能はざる所であつた。之蓋し當時の行政組織に於ては統計的調査技術の要求に合する程には、至つて居らず、又其調査技術も亦甚だ不完全であつたからである。然るに今日に於ては調査と加工とは分離し、加工は中央集査によつて行はれ調査材料の蒐集は税關其他交通營業所等の如き統計的外局の任務となつてゐる。此等の機關によつて外國貿易統計は完全に捕捉さるゝ事となるが、併し組織や規定だけでは足りない。申告の正確を期せんが爲には、眞に完全なる申告ありたる事を保證すべき職員が存在が必要であり、之が爲には不斷の教育と監視とが必要である。即ち貨物の輸送が或は

13) Grävell: *ibid.* SS. 175—176.

申告洩れになつたり、或は重複申告とならざる様注意すべきである。此等の誤謬は全體としては補償的なものであつて結局は消去さるゝ事となる事を以て満足すべきではない。蓋し今日外國貿易統計に要求さるゝ所は、全體的結果のみではなく部分的結果の正確と云ふ事である。部分的結果は大體少數の事例より成るものにして、求めらるゝ統計が特殊化すればする程益々少くなるもので、到底誤謬の均衡を期待する事は出来ない。従て外國貿易に關する事項は總て之を一度に且確實に把握すべき事は、今日外國貿易統計に對する無條件的要求と云はねばならない。

次に申告書に於ける申告が完全にして適切なる事が要求される。申告の完全性並に正確性に關しては屢々過誤が犯されてゐる。例へば申告書の記入の如きも、屢々無責任なる者の手に委ねられ貨物を運搬する運轉手とか徒弟等によつて申告書の記入が行はるゝ事も稀ではない。かかる場合其申告が完全でなく、従て之に基いて立派な統計の出来ない事は云ふ迄もあるまい。従てかゝる缺陷は之を除去すべきである。更に申告書に就ては其受入並に整理に際しては、完備並に正確の検査を行ふを要する。完備検査は比較的簡單であるが、正確検査は頗る面倒である。勿論正確検査と云つても、個々の場合に就き統計と簿記とを對比すると云ふ譯にも行かないのであるから、寧ろ一般的に申告が大體正確なりや否やを検査する事となる。

今日個々の外國貿易統計數字の重要性が増大するにつれて、益々検査に注意が向けらるゝ様になつた。數量と價額との間に一定の關係あるべきは云ふを俟たざる所である。従て前月又は前年同月の數字の比較によつて、其誤謬の有無を知るべく、又申告書の加工者の多年の特殊的知識及び經驗によつても亦其誤謬を發見する事が出来る。又疑問ある場合には、源泉に溯つて質す事も出来る。例へばポーランドを珈琲の生産國として擧げられ居るが如き場合、ポーランドは珈琲を生産する事はないのであるから、當然疑の眼を以て見るべきである。即ち仕入國や仕向國の申告に就ては、同地に於て當該貨物が生産又は消費さるゝ事實ありや否やを見る必要がある。又其交通路の如何も亦問題となり得る。外國貿易統計は大體今日迄の結果と對比する事によつて、大きな誤りは之を容易に發見する事が出来る。

以上述べたるが如き統計的誤謬の間接的除去方法よりは、直接簡明に最初よりかゝる誤謬を含まざる正確なる申告を爲さしむる様努力する事が一層肝要な事である。併し之は云ふべくそう簡單に行くものではない。經濟界や其指導發達に對する不斷の啓蒙的教育的運動が必要である。之が爲には單に必要な指圖を下すのみならず、外國貿易統計の意義や其重大性を説明する事によつて人々の統計に對する關心を覺醒せしむべきである。之が統計の信憑性の前提である。所が實際問題として人に過誤なきを期する譯には行かぬし、又更に統計事務を以て

不生産的なりとする爲に、往々にして其執行に當つては、充分熱心ならず良い加減に取扱ふ事が多い。従前の様に全體的に見て、統計的結果が重視さるゝ場合に於ては、個々の申告に於て、或は過大に或は過少に申告する事があつても、其偶然的誤謬は相互に相殺され全體に於ては略正鵠を得たる結果を得る事が出来るから、之を以て満足する事が出来る譯である。然るに、最近に於ける外國貿易統計は其新任務に照して、個々の結果を甚だ重視するものである。換言すれば特殊の輸入又は輸出せらるゝ貨物は一疋と雖も洩さず、正當なる價額を附し、仕入及仕向國別に當該貨物分類統計に現はるゝ事を必要とする。政府の貿易統計が益々嚴重となり、輸入割當が行はるゝ程、又互惠主義原則が益々行はるゝ程、益々個々の統計的結果が重視され従て統計調査並に加工に於ける検査の重要性が増大する。かくて検査は絶えず改善され、完成の域に向つてゐる。¹⁴⁾

(2) 外國貿易統計は有用なるもの、換言すれば其目的に合致せるものでなければならぬ。貿易に關する最も重要な標識として把握すべきものは、先づ貨物の數量、價額、種類並に方向である。此中數量の確定に就ては別段特に困難な問題となる様な事はない。重量が問題となる場合には正味量を以てするのが普通である。併し其他の標識に就ては、既述せる外國貿易統計の新任務に照して考慮すべきである。

(a) 外國貿易統計に於ける貨物の價額は境界價額、換言すれば國境に於ける價額、即ち輸入に於

14) Grälvell: ibid. SS. 176—179.

いては *c. i. f.* 價額、輸出に於ては *f. o. b.* 價額たるべきものである。蓋し此價額が輸入に際して外國に對し、輸出に際して外國より爲替手形を以て受拂さるべき金額であるからである。既述の如く貿易差額を決定する事は今日の外國貿易統計の重要任務の一であり、又爲替清算協定の締結、價額割當、輸出獎勵等に關聯して外國貿易統計が利用さるゝ場合に於ても、此價額が出發點となる。輸出入境界間に成立する運送費、保險料、其他の費用は特殊の取扱を必要とする。蓋し輸出入國の境界が共通であり、又輸出入貨物が此境界を越えない限り、輸入國に於ける輸入價額と輸出國に於ける輸出價額とが喰違ひを生ずる事となるからである。從て數量割當爲替清算協定等の決定に當つては、此事情を考慮しなければならない。輸出入貨物の價額が輸出入國によつて相違を生ずる事は、面白い事である。併し實際に於ては如斯喰違を生ずる事が國際貸借決済の計算に當つて却つて有利なる結果を齎らす事もあるので、中々之を取除くと云ふ譯には行かない。

(b) 次に貨物の種類であるが、申告さるゝ貨物の種類は幾萬千を數へ、到底之を統計表に全部網羅するが如き事は出来ない。之を適當に綜合分類するを要する。其分類に當つては其數が餘り少くても困るし、又稅率表に掲けられたるものに限る事も不可能である。商工業が分化するにつれて、外國貿易統計も亦從て分化すべきは自明の事である。外國貿易統計に於て貨物分類

を重視するは、或種の貨物の輸出入の統計的把握が政府や經濟界に取りて必要なるが爲である。即ち個々の商人が最も關心する所は自己の取扱ふ商品に關する統計があるか否かである。とは云へ、外國貿易の貨物分類による編成をあらゆる人々の希望に沿ふ様にする事は不可能の事であるから、只其分類が最も重要な利害關係者の欲する所に合するのみならず、又新に之に關心を有する人々の希望にも合する様に伸縮性あるものであれば、之を以て満足すべきである。外國貿易品は絶えず變化するものであるから、從て外國貿易統計に於いても其貨物分類が時によつて變更さるべきは云ふを俟たぬ。此場合には、唯特殊利害關係者の要求のみならず、其變更が一般的に見て利益とする場合に限局すべきである。

(c) 外國貿易の方向は之を知る事が特に困難である。貨物の輸出入に當つて如何なる國より輸入したか、又如何なる國へ輸出したか、換言すれば貨物の仕入國及び仕向國なる概念は、人に依つて種々に解せられ、屢々國際會議の問題ともなつた。輸出輸入と云ふ時、三つの場合があり得る。

輸入に於ては (i) 原産國又は生産國 (das Ursprungs- oder Herstellungsland) (ii) 積出國又は仕入國 (das Versendungs- oder Herkunftsland) (iii) 買入國 (das Einkaufsland) があり、又輸出に於ては、(i) 消費國 (Verbrauchsland) (ii) 荷受國 (das Versendungs-(Empfangs-)land) (iii) 賣却國 (Verkaufsland) がある。

輸出入に就て以上の如く輸出入國を區別し、之を統計的に把握する事は、確かに沒意義の事で

はないであらう。獨逸に於て或種の貨物に就き一九二八年のジュネーブに於ける統計會議の提案に基き、此の立場よりする輸出入國の調査が試験的に行はれてゐるが、之を全貨物に及ぼすが如き事は實際的にも財政的にも不可能である。そこで問題は如何なる範疇を採るべきかと云ふ事となる。此點に就ては外國貿易統計の新任務に照して輸入に於ては事實上の仕入國を輸出に於ては最後の仕向國即ち消費國又は加工國を把握すべきは、何等疑なき所である。特に獨逸の如く原料並に生活必需品の輸入を互惠主義原則に基きて確保せざるべからざる必要に迫らるゝ國に於ては、外國との直接的貿易關係の正確なる認識によつて、詳言すれば、自國が外國より買入るゝよりも、外國が少く買入れてゐると云ふ報告がない限り、外國に對し自國よりもつと多くを買取るべき事を要求する事は出来ないであらう。かゝる場合に於ては、輸入品は其生産又は製造國を、輸出品に就ては貨物が事實上消費又は加工さるゝ國を挙げざるを得ない。蓋し此等の諸國こそは窮局に於て貨物の對價を受取り、又は支拂はざるべからざる國であるからである。此點に於て英國を濠洲羊毛の仕入國とする事は、假令羊毛が英國の倉庫より積送されたとしても、何等益する所はないであらう。此場合實際の仕入國は濠洲であつて、英國は其中間國に過ぎないのである。

眞實の仕入國や仕向國は實際に於て常に必ずしも申告されてゐるとは限らない。それは此

等の國が申告の當時、申告者には不明な事があるし、又此仕入國及び仕向國を申告すべき原則が總ての國に依つて承認されてゐる譯でもないからである。此二つの理由によつて同一の取引にも拘はらず、各國の統計に現はるゝ結果が一致を見ない事となる。尙此點は後に又觸れる。¹⁵⁾

(3) 外國貿易統計は迅速なるを要す。外國貿易統計に課せられたる新任務の遂行に當つては、其結果が適當の時期に現はるゝ事が肝要である。此點に於て、外國貿易統計の申告並に加工が迅速を要すべきは云ふを俟たぬ。併し外國貿易統計の迅速に對する要求は、更に他の方面よりも加つてゐる。外國貿易に關する重要な結果は月々加工發表され、從て月々の數字は月々の貿易の推移並に現狀を如實に反映すべきものである。而も今日種々の商業政策的手段や爲替の統制等は大部分月々の數字を基礎とせるものである。從て例へば統計を土臺として季節的割當額とか、或は其割當品に對する關稅の減免等が決せらるゝが如き場合に於ては、統計の時間的眞實性が將來の取引に大なる影響を與へる事となる。之外國貿易統計が貿易の時間的運動を特に如實に示すべき要ある所以である。而して之が爲には申告並に加工期間が長きに過ぎ、又は加工を怠る事なき様注意が肝要である。¹⁶⁾

B 國際的比較

今日商業政策の中心を爲す重要問題は、貿易差額、輸出入割當、又は爲替許可による輸出入の操

15) Grävell: *ibid.* SS. 179—183.

16) Grävell: *ibid.* SS. 183—184.

縱等である事は既に述べた。而して此等諸問題に對して取るべき手段は、必然に外國貿易統計より出發するを要すべきは喋々を俟たぬであらう。其際多くは獨自の手段よりは國際的協定が問題となる。而して各國の狀態の批判に當つては、少くとも二個の外國貿易統計が使用される。一は輸出國の統計であり、他は即ち輸入國の統計である。外國貿易統計の新任務の立場より云ふならば、相互に對應する統計が其結果に於て一致する事が理想的であらう。併し乍遺憾如斯き事はない。茲に於てか、何故に二國の統計が一致しないか、更に兩者を一致せしむる事は可能でないかどうかの問題が起る。此問題が新通商條約の決定、或は貿易や爲替統制に當つて如何なる統計を基礎とすべきかを決する場合、如何に大切であるかは、明白の事である。¹⁷⁾次に外國貿易統計不一致の理由として、調査技術上、加工技術上、及び方法上の三點より、説明する事にする。

先づ調査技術上の理由としては、統計の成功には國家行政機關並に申告を行ふべき人々の協力が必要な點に見られる。詳言すれば行政官の素質の良否が統計の信憑性に重大なる影響を與ふるのみならず、他方統計官廳に申告すべき人々が貿易統計に對する無知無經驗、怠惰惡意も亦其結果に重大なる影響を與へるものである。兎も角も一般的統計調査に於けると同様に、統計機關の組織及素質並に被調査者の素質如何が外國貿易統計の價值を決定するのみならず、

17) Grävell: *ibid.* SS. 184—185.

又國際的一致の前提ともなる。從て國際會議に於ては、單に外國貿易統計調査に於て何をのみならず、如何に之をも取扱はねばならない。蓋し統計の國際的比較は其數字が關係諸國に於て出来るだけ同様の方法を以て蒐集されたる場合に初めて可能となるからである。¹⁸⁾

加工技術からは、云ふ迄もなく加工手續の相違によつて其結果が左右されぬ事を要求する。

之が爲には例へば、單に各國に於ける加工編整の基礎たる統一的統計品名が存するのみでは、充分ではない。更に進んで個々の貨物が同一の原理原則によつて貨物表に排列さるゝ事が必要である。併し品名が如何に異なるか、又或貨物の稅率決定が如何に困難なるかを知る者に取つては、統一的原則や基準によつて統計方法の一致を保證し得るものであるか否かは、疑問であるに相違ない。兎も角も此點に於て困難なる統計に在りては中央集査による外其統一を期し得ざる事は一般の常識である事を想起すればよい。¹⁹⁾

更に方法上よりは、外國貿易統計一致の前提を設けねばならない。即ち價額、仕入國及び仕向國商品種別等の概念を統一的に規定するを要する。併し此概念規定に當つては、二個の限界がある。一は必要なる申告が簡單に行はれない場合であり、他は統一的方法が却つて結果の不一致の原因たる場合である。

先づ第一の場合に就て見るに、例へば仕入國や仕向國の申告が全然ない事がある。又貨物の

18) Grävell: *ibid.* SS. 185—186.

19) Grävell: *ibid.* S. 186.

價額は之を一義的に調査し得ない場合が多い。茲に於てか、單に仕入國や仕向國や價額の定義を與ふるのみを以ては足らず、概念的に決定されたる標識を實際に調査する事が大切となる。併し如何なる定義を用ふるにもせよ、實際問題としては完全無缺たるを得ない。例へば獨逸の輸出業者が和蘭に貨物を賣却し、同國へ積送したる場合、和蘭の輸入業者が其貨物を半年後に蘭領印度に轉賣する事を知らざる場合には、獨逸の統計には和蘭が消費國として掲けられる。和蘭は恐らく之を獨逸よりの輸入並に蘭領印度への輸出として掲ける事となるであらう。併し蘭領印度にして外國貿易統計に原産國を掲げる主義を採る限り、同國の統計には獨逸が仕入國として現はれ、和蘭は現れないであらう。

此例に依つても明かなる如く、生産より消費に至る商品の流通過程に對する客觀的無識又は主觀的無識が、外國貿易統計不一致の有力なる原因となり得るものである。商品の流通過程に就ては輸出入業者に對して、運送業者や税關吏よりも一層其知識を期待し得るものである。從て外國貿易統計に於ける一致の程度は、少くとも仕入國及び仕向國に關しては如何なる人を統計材料蒐集に當つて利用するかに依つて決する問題である。

貨物の價額に就ては、先づ貨物の種類とは之を同一に看てはならぬ事を注意すべきである。實際の境界價額を特殊方法によつて客觀的に決定する事は、常に可能なる事ではない。例へば

貨物が國境を越えて外國の目的地の倉庫に搬入され、又は貨物の輸入の場合、其支拂計算が取引所相場によつて行はるゝとすれば、少くとも申告時には、數字的に正確なる境界價額は存在しない事となる。従て此場合には、一時的の假の價額が附せらるゝ事となる。而して此假の價額は當時の市況に基き、又は早晩賣買さるべき價格に近似せる價額である。其際國境價額が國によつて異なる事あるべきは、云ふを俟たぬ。又更に價額の調査に當つて、各國が其申告を各方面の人々に爲さしめてゐる事も一原因である。税關吏や運送業者は輸出入業者に比して、正確なる境界價額を決定し得ざるは自明の事である。そこで例へば或國に於ては税關吏が統計的申告の職能を遂行し、他國に於ては輸出入業者が之を行ふとすれば、當然に兩國の統計は一致せざる事となる。更に又或國は價額の決定に當つて申告主義を採り、他國は評價主義を採るとすれば、其處にも亦不一致の原因が見られる。殊に評價主義を採る場合には、其正確度が甚だ異り、評價額と實際價額との開きが五〇%以上に上る事も決して稀なる事ではない。

次に統一的方法が却つて統計的結果の相違を來たす原因となる場合に就ては、境界價額概念の統一的適用が、國境を等しくせざる場合に於いては、或貨物の輸入價額は常に輸出價額の上位に在つて、兩者の不一致を來たす事を想起すればよい。併し少くとも貨物の境界價額は、外國貿易統計に於て用ひらるゝ價額として、一般に認められてゐる概念である。然るに貨物の種類と

か、仕入國や仕向國とか、又貿易の種類等に至つてはそんな譯には行かない。

先づ貨物の種類に就て標準となるものは、關稅率表であるが、未だ世界共通の統一的稅率表は存存しない。只僅かに統計の目的の爲に、所謂ブラセル品名表があるのみである。併し此表とても、それが古くさく且缺陷ある事は別としても、之を採用せる國が僅か二三に過ぎず、而も亦此等の國に於ても其貨物の種類別が必ずしも其表通りには行はれてゐない。之に徴して見るも、貨物の種類の國際的統一には甚だ重大なる障礙がある事を知るべきである。

又仕入國や仕向國も多くの國に於て、貨物の買入國又は賣却國又は積送國を以て満足すると云ふ状態であつて、從て國別の貿易統計の結果が一致せざるべきは當然の事である。例へば瑞典が和蘭に貨物を積送し、更に其貨物が和蘭より獨逸に賣却されたるが如き場合、各國に於ける國別統計は次の如き結果となる。瑞典は和蘭への輸出とし、和蘭は之を通過貿易と見、獨逸は之を瑞典より輸入として記録する事となる。其結果三國の外國貿易統計は一致を缺ぐ事となる。

次に貿易の種類に關聯しては、通過貿易 (Durchfuhr) と加工貿易 (Veredelungsverkehr) とが問題となる。通過貿易に就ては、外國貿易品が如何なる國に歸屬せりやの問題があり、又加工貿易に就ては加工とは何かを規定しなければならぬからである。或貨物の國籍は其貨物が通過貿易品であるか否かに依つて決する。換言すれば之は如何なる前提の下に或貨物の仕入國又は仕向

國が決せらるゝかの問題に答へるものである。例へば獨逸に於て、或貨物の仕入國と稱するの
は、其貨物を生産し、又は獨逸へ輸入の際に於ける特定貨物としての性質を附與したる國を云ひ、
仕向國とは其貨物が消費又は加工さるゝ國を指してゐる。併し之は只一の基準を示したるに
過ぎぬ。

加工の定義を降す事は極めて困難なる事である。通例加工と云へば選別や混合と云ふ意味
に取られてゐる様である。加工によつて輸入貨物は其國の國籍を取得し、再輸出に際しては自
國品の輸出として取扱はるゝ事となる。従て此點より加工と云ふのはどの程度の加工が必要
であるか、僅かの變更或は相當期間の保管でも充分であるか、之は國々に依つて甚だ異つてゐる。
例へば獨逸に於ては、通過貿易品であつても、直に發送されず獨逸國に止る貨物は、之を通過貿易
品とはせず、保稅地域への輸入又は保稅地域よりの輸出としてゐる。併し此場合外國が生産國
及び消費國を把握する原則を採る限り、此等の國に於ては獨逸を通過貿易國と看なければなら
ぬ。加工貿易の統計的意義も亦國によつて異つてゐる。之を獨逸の様に關稅技術上より考慮
すべきか、又國民經濟上より考慮すべきか、之は國に依つて異なる所にして、其統一を望む事は出來
ないであらう。²⁰⁾

如斯にして外國貿易統計に相違を來たすべき原因は多々あるが、尙或は返送品の取扱方や、又

運送期間が長引いたり、或は保税區域に入れられたる貨物の時間的喰違が統計の不一致の原因となる事がある。短期日に於けるかゝる喰違ひは到底之を避ける事は出来ないであらう。又關稅區域の變更も亦統計の不一致の一原因たり得る。²¹⁾

以上外國貿易統計の國際的比較を阻むが如き諸原因に就て述べたのであるから從て如何にすれば國際的比較が可能であるか、自ら明であらう。詳言すれば、關係各國に於て同一の貨物分類を行ひ、同一の價額概念を用ひ、又特殊貿易と通過とに就き其取扱方法を同一にし、仕入國や仕向國の概念を等しくし、更に各國とも同様に其調査及整理の信頼度を保證する様な機關を有する事にすればよい譯である。既述せるが如く、今日各國とも猛烈なる貿易統制に乗り出し、此新狀態に對應すべき諸種の國際的協定を締結するを必要とし、之が爲に外國貿易統計の國際的統一が甚だ望ましき事である。かくて此點に於て各國の協力を要すべき甚だ廣大なる分野が残されてゐる。實際着々各國の努力が此方面に向けられてゐるが、既述せる所によつても明かなる如く、外國貿易統計の完全なる一致を見る事は到底不可能の事であらう。²²⁾

四

外國貿易統計の任務は時代に依つて異なる。即ち時代の要求する所によつて、其目的を異にし、

21) Grävell: ibid. S. 191.

22) Grävell: ibid. SS. 191—192.

從て外國貿易統計も其目的を達する様構成されなければならぬ。此點に關して吾人は外國貿易統計の標識の概念規定が甚だ困難であり、同時に其整理方法が國に依つて異なる爲に、概念的には假令理想的なる外國貿易統計を作成する事が可能であつたとしても、各國に於ける外國貿易統計に求むる所が異り、從て其當然の歸結として其構成が異り、國際間に於ける外國貿易統計の一致を見る事なきは自然の事であらう。之は決して一國の統計が是にして、他國のそれが非なりとする意味ではない。双方とも正しく只其立場を異にして作成され、又其目的を異にする爲に、兩者が同一の基礎に於て比較が出来ないと云ふ意味である。又此場合屢々國家的觀點と國際的觀點との對立がある。其處にも亦理想的外國貿易統計に對する困難がある。²³⁾

吾人は最近外國貿易統計に對し、國際經濟の發展の必然的結果として、如何なる任務が課せられるに至つたか、又其結果外國貿易統計は如何に構成さるべきかの問題に觸れた。此新任務に依つて規定さるゝ新たなる外國貿易統計は狀態の變化によつて之に課せらるゝ任務が異れば、又當然に異なるべきものにして、結局之も亦歴史的所産にして決して永久性を要求し能はざるものなる事を忘れてはならぬ。

— 終 り —

23) Grävell: ibid. SS. 192—193.